

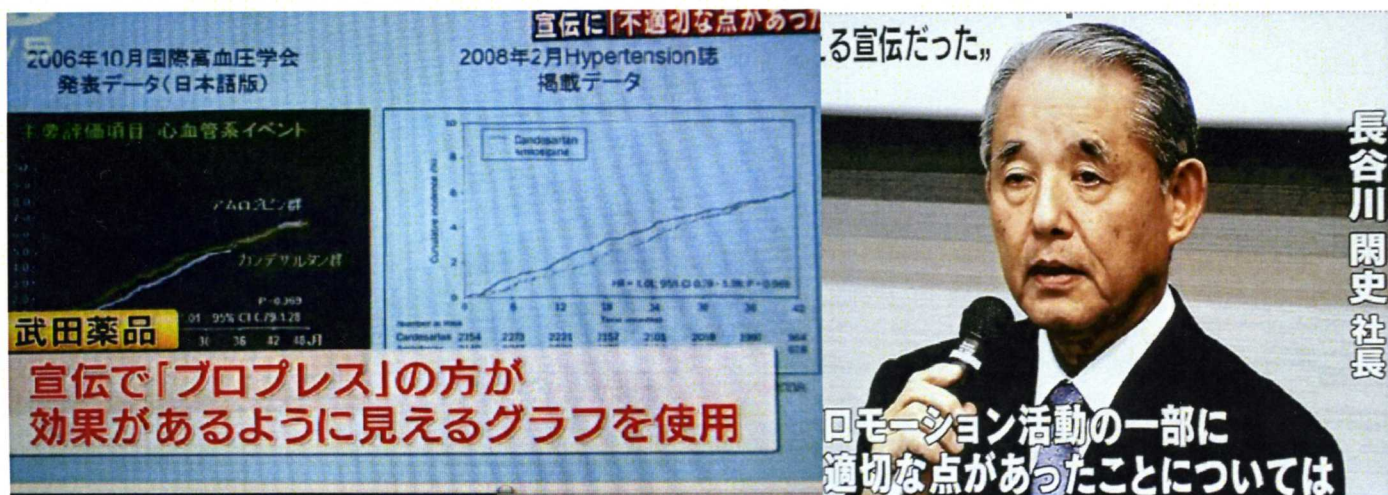
安全って、本当ですか？

2014年 4/23
ニュース第20号

武田薬品湘南新研究所を問う！

(発行): 武田問題対策連絡会 <http://www.shounan.biz/>

武田薬品、降圧剤（プロプレス）で誇大広告



一反省のない長谷川社長の記者会見 — (写真はANN・NHKニュースより)

武田薬品工業が製造販売する高血圧治療薬「プロプレス」の宣伝広告が、誇大広告であったことが発覚し、3月3日同社長谷川社長が記者会見を開き事実を認めた。しかし、長谷川社長は「誤解を与える宣伝だった」と言うだけで、「データの改ざん、捏造はない」と武田薬品の責任を認めず、薬事法違反もないと言い切った。

① 何が誇大広告なのか、今回の事件の概要

2001年から05年に懸けて、武田薬品の降圧剤「プロプレス」とファイザー社などの「アムロジピン」のどちらが効くか、臨床データをとる研究が行われた。この研究のため、データセンターの京大には武田薬品から25億円もの寄付金が提供された。研究結果はたいして変わらないことが判明したが、この研究データを自社のプロプレスの方が、効果があるように見せかけるグラフを使って宣伝したのが今回の事件である。(写真参照)

② 金で臨床データを買う武田の不当なやり方

今回の事件のもう一つの問題点は、タケダ製品の優位性を明らかにするために、大学に、多額の寄付金を提供した武田のやり方である。2012年度の武田の寄付金は400億円にもほり業界トップだった。(毎日新聞) 金で臨床データを買う製薬会社と大学・研究機関との癒着はキッパリ縁を切ってもらいたい。

③ 不祥事止まらない武田薬品

武田薬品は、今回のプロプレス誇大広告ばかりで無く、4月に入ってから糖尿病の薬アクトスの副作用問題でアメリカの裁判所から6000億円を超える多額の損害賠償が評決された。武田薬品の長谷川社長は、今回の事件で昨年に続き製薬協会から2回目の6ヶ月の役職停止処分が下された。経済同友会代表幹事という公的立場にありながら、再三にわたり多くの医療関係者や国民を欺いた責任は重大である。

④ 事件の真相究明は、公開された第三者機関の報告で

記者会見で長谷川社長は広告作成経過を調査するために、第三者機関の設置を発表した。しかし、具体的な会社名の入った報告書が公表されて初めて公正な第三者機関の報告といえるものである。今から2年半前、武田薬品は湘南研究所のバイオ排水を漏出する事故を起こした時には、調査企業名を明らかにせず武田薬品に都合の良い報告書でお茶を濁した。今回は、第三者機関名入りの報告書を公表させなければならない(当代表小林麻須男)

